

真夏のサクラ

コロナ収束への希望に

沼田の雪山で埋設作業

8月の五輪マラソンでお目見え

【沼田】今年八月に札幌市で開催される東京五輪マラソン・競歩の会場でお披露目するサクラを雪山に埋める作業が二十六日、町内北竜の「沼田式雪山センター」であった。雪の中で夏まで開花を遅らせたサクラを沿道の応援に活用する取り組み。五輪延期となった昨年続き、今年も全道各地からサクラを集めた北海道雪氷桜プロジェクト実行委（札幌市）の越智文雄委員長は「今年こそは北海道の雪と桜、そしておもてなしの心を世界に発信したい」と期待を膨らませている。

道内の経済人や自治体の首長らで構成する同実行委は、「東京オリンピック」に北海道の雪と桜を贈る「ろう」と二〇一八年に発足。雪の冷気を農産物の貯蔵に役立てて、道の経済人や自治体の首長らで構成する同実行委は、

開花させる計画だ。

今年、北空知管内の沼田・秩父別の両町を含む道内三十二の自治体から集めた約三千三百本のサクラの枝を用意。新型コロナウイルスの収束とオリンピック開催への期待を込め、「希望の桜」と名付けた。

沼田町の横山茂町長らが参加した埋設作

業では、長さ約一メートルを農業用コンテナ十個に入れ、雪の中に保存。サクラは三週間ほどで開花するとい、

七月中旬に雪山から取り出す予定だ。

越智委員

長は「感染防止対策をした上で、沿道にいる子どもたちが、真夏のサクラ」を振りながら選手たちを応援する光景が待ち遠しい」と話している。



雪山に埋めるコンテナにサクラの枝を入れる横山町長
提供